

# 令和4年度 蒲小学校 学校評価報告書

## I 令和4年度の本校の取組

『学び合い』本気で学習する子を育てます  
 ・主体的、協働的な授業づくり ・教科担任制による質の高い学び ・効果的なICT活用

『認め合い』本気で相手を思いやる子を育てます  
 ・考え議論する道徳 ・あいさつの励行 ・異学年交流の充実

『高め合い』本気で体を動かす子を育てます  
 ・教科体育の充実 ・運動の日常化 ・健康教育の充実

『開き合い』居心地のよい環境を作ります  
 ・心身の安全 ・いじめや不登校の未然防止 ・チームで対応  
 ・情報の共有化 ・指導の一体化 ・個に応じたプロジェクト

咲かそう蒲桜

やさしさ やる気 夢 いっぱい

『結び合い』家庭や地域と共に学ぶ学校を作ります  
 ・幼小中連携 ・小中交流会 ・コミュニティスクール  
 ・ふれ合いデー ・地域ネットワークの開発

## II 自己評価（左から児童、保護者、職員）

児童アンケート質問項目		前期	後期
1	授業では、めあてをもって学習をすることができましたか	97%	98%
2	自分の言葉で学習のまとめをすることができましたか	90%	93%
3	家庭学習をしっかりと行いましたか	95%	95%
4	学習がよく分かりましたか	98%	97%
5	いつでもあいさつをすることができましたか	90%	91%
6	「ありがとう」を言って、感謝の気持ちを伝えましたか	97%	97%
7	人の話を黙って最後まで聞くことができましたか	95%	95%
8	目標をもって、運動に取り組むことができましたか	91%	93%
9	晴れた日には、運動や外遊びをすることができましたか	79%	85%
10	早寝はできましたか	84%	85%
11	早起きはできましたか	93%	92%
12	朝ごはんを毎日食べることはできましたか	97%	97%

保護者アンケート質問項目		前期	後期
1	お子さんは学校に楽しく通っている	92%	93%
2	お子さんは学習内容をきちんと理解している	85%	83%
3	お子さんは挨拶や優しい言葉遣いができている	86%	86%
4	お子さんは目標をもって運動したり元気に遊んだりしている	85%	87%
5	家庭では家庭学習の習慣ができている	67%	67%
6	家庭では早寝早起き朝ごはんができている	87%	85%
7	蒲小は子供の相談事や悩み事に対応してくれている	85%	87%
8	蒲小は安全面に配慮してくれている	89%	92%
9	学校からのたより等は学校の様子を知るのに役立っている	96%	95%
10	運動会は子供の生き生きとした姿や活躍する姿が見えた	91%	89%
11	学校公開日は子供や学校の様子を知るのに役立っている	98%	98%
12	さくら連絡網で欠席連絡やお知らせの確認ができ便利になった	96%	97%

職員アンケート質問項目		前期	後期
1	蒲小スタンダードや学習ルールを基に「主体的・協働的な授業づくり」が行えた	93%	97%
2	地域人材の活用等、学びのフィールドを広げることができた	48%	76%
3	授業の最後に子供たちの言葉で振り返りができた	64%	61%
4	学習の中で効果的にICT活用ができた	64%	76%
5	家庭と連携して個の学びの保障が行えた	79%	74%
6	「考え議論する道徳」の授業が行えた	69%	76%
7	挨拶やいいこと見付けにおいて子供が主体的に参画できる手立てが打てた	91%	97%
8	異学年交流の活動を趣旨に沿った内容で行えた	71%	71%
9	目標を持って運動に取り組めるような体育科の授業・行事の工夫ができた	91%	97%
10	命を大切に安全な生活を送る意識を高める指導ができた	98%	100%
11	こころの日や給食指導等を通して健康に過ごす意識を高める指導ができた	100%	100%
12	子供が安心・安全と感じる温かく潤いのある環境をつくることができた	95%	100%
13	学年内などで情報を共有し合いチームで指導を進めることができた	95%	95%
14	共有した情報を基に個に応じたプロジェクトを仕掛けることができた	79%	79%
15	挨拶や生活リズムが定着するよう家庭に投げ掛けることができた	76%	84%
16	本校の目指すキャリア教育の資質・能力を意識して活動を進めた	76%	92%

## III 分析・考察（案）

- ・子供の安心安全を第一に考える職員集団に対して、家庭や地域が信頼を寄せ教育活動に理解、協力をしてくださっている。
- ・地域での活動や地域人材を活用した活動が再開され、効果的な学習ができるようになった。
- ・これまでのコロナ対策やタブレット導入により減少が見られていた運動や外遊びをする子が再び多くなってきた。
- ・挨拶についての評価は前期に比べ後期はわずかに高まったが、だれにでも自分から進んでできる子はまだ少なく、保護者の評価からもそのことが伺える。
- ・児童、職員の自分の言葉で学習のまとめをする、指導することの評価が他と比較して低いことから、振り返り活動のさらなる充実が必要である。

## IV 学校運営協議会における学校関係者評価

- ・先生も児童もタブレットに慣れていて使いこなしている。しっかりと活用の機会を積み上げ、研修を深めてきたことが伺える。
- ・体験や交流を単発の活動にとどめず、学んだことをまとめて発表する活動へとさらに学習を展開させていることに感心した。
- ・地域として、子供たちの豊かな学びを実現させるためにさらに協力したい。学校の求める協力で少しでも応じていけたらと思う。
- ・様々な特性をもつ子供たちがいる。悩みを抱える子供もいる。多様性を理解して互いに認め合ったり支え合ったりしていけるような教育を進めてほしい。

## V 今後の改善方策（案）

- ・家庭や地域の協力を仰ぎながら、どの子にとっても安全で安心な学校づくりを全職員でさらに進めていく。
- ・各教科の授業とキャリア教育の関連を意識したり、体験的な活動や地域人材・地域資源を生かした学習を取り入れたりして、学びと実生活がつながるような取り組みを推進する。
- ・知・徳・体のバランスよい育成を継続し、引き続き、運動の日常化を含めた子供の心身の健康を維持増進する活動に取り組む。
- ・委員会活動などの子供たちの自治的な活動から挨拶の大切さを実感できる働き掛けをしていく。
- ・振り返り活動をさらに充実させるために授業研究を活発化させ、振り返りの意義や方策の共通理解を図ったり、互いの授業を見合う機会をさらに増やしたりする。